

2018 年新春！

防府市 × 山口県立大学

デザインでつなぐ  
俳句と美術工芸と  
近未来の喫茶文化

日時：  
2018年1月27日(土)  
14:00-16:30  
入場無料

会場：山頭火ふるさと館 ふるさと展示交流室

住所：山口県防府市宮市町 5-13 電話：0835-28-3107

※席は限りがございますので、予めご了承ください

### 基調講演

「山口県の美術工芸事情から見る防府市」 石崎 泰之（山口県立萩美術館・浦上記念館 副館長）

### 企画デザイン研究室からのプレゼンテーション

- 1 現在の地理上にマッピングした防府市の伝統産業 高橋 潤一郎（山口県立大学大学院国際文化学研究所 1年）
- 2 新様式野点と道具の創造 原田 章子（山口県立大学大学院国際文化学研究所 2年）
- 3 新野点のための服装 水谷 由美子・下川 まつゑ（山口県立大学国際文化学部 教授・文化創造学科 4年）

### 休憩

#### パネルディスカッション

- パネラー 1 窪田 耕二氏（山頭火ふるさと会 会長） 2 西田 稔氏（山頭火ふるさと館 館長）  
3 大井 正則氏（玉祖窯 萩焼作家） 4 松村 憲治氏（鋳物・金属作家）  
5 大道 竜士氏（藍染作家）

コーディネーター 水谷 由美子（山口県立大学国際文化学部 教授）

主催：山口県立大学

共催：防府市

協力：山頭火ふるさと館 山口ファッション&テキスタイル研究所 Y-FATI 防府有志

山口県立大学企画デザイン研究室は、2017年度から防府市との共同研究として、防府市の美術工芸に関わる地域産業のマッピング調査を行っています。防府市には毛利家が茶の湯文化を発展させた優れた茶室が継承されております。そこで、当研究では茶の湯にまつわる多様な工芸文化の総合的発展と共創に注目してこのシンポジウムを企画しました。

2017年10月に防府市の新しいデスティネーションとして、「山頭火ふるさと館」がオープンしました。これを好機として、「デザインでつなぐ俳句と美術工芸と近未来の喫茶文化」と題して関係者に集まって頂き、防府から新しい産業の振興につながる活動を開始できないかと考えています。

皆さまお誘い合せの上、ご来場頂けましたら幸いです。

## 講師等紹介



石崎 泰之（山口県立萩美術館・浦上記念館 副館長）萩市

1960年松山市生まれ。1983年筑波大学芸術専門学群芸術学専攻卒業。東京都教育委員会、山口県教育委員会を経て、1996年から山口県立萩美術館・浦上記念館の学芸員として勤務し、2017年に副館長兼学芸課長（現職）。陶磁史・陶芸論。



窪田 耕二（山頭火ふるさと会 会長）防府市

1939年9月生まれ。高校時代に俳句入門、大学時代に石田波郷、1972年に自由律俳人種田山頭火の俳句と出逢う。1980年、山頭火ふるさと会発起人、現在会長。1989年から2011年まで防府日報社長。



西田 稔（山頭火ふるさと館 館長）防府市

日本人学校校長を務め、帰国後県教育庁、防府市教育委員会学校教育課長・部次長を歴任し、山頭火の母校防府市立松崎小学校校長を最後に退職。現在も土曜寺子屋、学習支援教室を開催して地域貢献活動に従事。



大井 正則（玉祖窯 萩焼作家）防府市

防府市で千数百年の歴史があると伝えられる佐野焼の地で1928年に開窯された玉祖窯を妻美智子氏とともに継承し、萩焼作家として活躍している。萩焼に絵付けをしている点に特徴があり、多数の受賞歴がある。日本工芸会正会員及び萩陶芸家協会会員。各地で作品を発表。



松村 憲治（鋳物・金属作家）防府市

防府に約180年続く鋳物屋に生まれる。今現在、北米やフランスでのデザイン留学経験と受け継いでいる鋳造技術を生かし、鋳物と鉄を融合しながら建具や家具、オブジェなどの作品を意欲的に制作している。



大道 竜士（藍染作家）防府市

東京都出身。2015年より防府市地域おこし協力隊として藍作から藍染まで、『農』から始まるものづくりをテーマに活動している。



水谷 由美子（山口県立大学国際文化学部 教授）山口市

産学公連携事業として、山口市（やまぐち文化発信事業 Naru Naxeve、湯田温泉まちあるき着の開発、徳地和紙振興とまちづくりなど）や長門市（東後畑のブランディング、アグリアート・フェスティバルなど）において服飾や芸術文化による地域活性化事業を多数手掛けている。

## お問い合わせ

住所：〒753-8502 山口市桜畠 3-2-1 山口県立大学国際文化学部

電話：083-928-3423（担当：水谷） E-mail：myumiko@yamaguchi-pu.ac.jp